

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

超早産児の生後早期の左室後負荷と脳静脈血流の関連

1. 対象となる患者さん

2022年5月～2026年4月の間に当院 NICU に入院された超早産児（在胎28週未満の早産のお子さん）とその母

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門 青木宏諭

3. 研究の目的と意義

超早産児（在胎 28 週未満で出生）は生後 72 時間以内に脳室内出血を起こすリスクが高いことが知られています。この出血は脳性麻痺、発達の遅れを引き起こす重大な合併症です。近年の研究では、脳室内出血を起こす兆候として、超音波検査で「心臓の動き」、「脳静脈の血流」に変化が起こることがわかっています。当院でもその2つの指標に着目し、脳室内出血を未然に防ぐための循環管理（血圧などの調整）を行っています。

しかし、「心臓の動きと脳静脈の血流がどのように関係しているのか」、という詳しいメカニズムについては十分に解明されていません。本研究では、蓄積された検査データを利用し、心臓の動きと脳の血流の関連性を明らかにすることを目指します。この研究を通じて、出血を防ぐためのさらに優れた治療法の確立につなげたいと考えています。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんの電子カルテや部門システムから収集し、生後 72 時間以内に同時に測定された「心臓の超音波データ」と「脳静脈の血流データ」を照らし合わせ、両者にどのような関連があるかを解析します。

5. 使用する情報

診療情報：

①電子カルテ、部門システム内の患者さんの臨床データ：性別、出生週数、出生時体格、アプガースコア、病名、先天性疾患、生後 72 時間のバイタルサイン、超音波検査データ、治療内容、入院日数、合併症、入院中の転機（生存、死亡）

②電子カルテ内の患者さんの母の臨床データ：年齢、妊娠分娩歴、既往歴、産科的合併症、治療内容、分娩様式

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2030 年 12 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門 青木宏諭

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：hirosatoa@naramed-u.ac.jp